

ALFP マガジン 『Voices of Asia』

ALFP eマガジン 第1号

Democracy

概要

ゲストエディター：Kunda Dixit (「Nepali Times」紙 編集者・発行人 / 2006 年度 ALFP フェロー)

開かれた自由な社会に脅威をもたらすのは、いまや全体主義的な独裁者だけではない。選挙によって選ばれたポピュリスト政治家も一翼を担っており、その脅威は世界に広がっている。ポピュリズム、外国人への恐怖、あからさまな人種差別を扇動するリーダーたちが、公職に就き、そして、公職に就いた途端に、彼ら自身を当選に導いた制度そのものを壊しにかかるのだ。このような指導者の例はアジア太平洋地域の国々にも存在し、自由を制限し、メディアを弾圧し、法による統治の劣化を容認するような策を次から次に講じてきた。本号では、既成の民主的政党内における混乱、グローバリゼーションへの反動、そしてこういった傾向に拍車をかけるソーシャル・ウェブの広がりについて分析する。また、アジア各国の執筆者や研究者たちが、リベラルな民主的空間を保持するためのモデルや抵抗の成功例についても紹介する。

アジアの「民主化」の波はどこへ？

ALFP が新たに発行した e マガジン 「Voices of Asia」 の創刊号は「民主主義」をテーマに、6 人が寄稿している。

「アジアの声 (Voices)」が複数であるように、「民主主義」もアジアでは単数形ではない。戦争、革命、クーデターなど各国がそれぞれの体験の中で「民主主義」を手探りで求めてきたからだ。その状況は、今現在も続いている。

振り返れば、フィリピンや韓国を皮切りに 1980 年代に始まった「民主化の波」は、冷戦の終焉でアジア各地に及ぶようにみえた。カンボジア和平で「戦場から市場へ」というキャッチフレーズが叫ばれたように、経済の相互依存のネットワークによって生まれた新たな中間層がアジア民主化の担い手となっていく……。こうした楽観的な見通しを語れる人は、もういない。逆に「民主化」した国が軍事政

権や強権支配に逆戻りする「民主主義の退潮 (democratic recession)」(Chito Gascon) が目立っている。グローバル化やネット社会が「市民社会」を作るよりも人々の不安をあおり、大衆感情に迎合する政治が台頭している。

「民主主義」のモデルが崩壊しつつある今、その再生は私たちに共通の課題だ。
その手がかりを「アジアの声」に求めている。

水野孝昭 (神田外語大学教授/ ALFP 諮問委員)